資料３

	CDDP	IFM	ADM	TXL	CBDCA	5-FU	ETP	MTX	VCR	DEXA	パミドロン酸	CPA	EPI	IL-2（セ）	IL-2（テ）	PCZ	IL-LV	MPDS	Ara-C（HD）	ACNU	併用療法	領域	対象疾患	効能等の追加事項（効能・効果、用法・用量）	進行スケジュール
2			●						●	●											VAD療法	血液腫瘍	骨髄腫	骨髄腫	次回以降
3	●						○											○	○		ESHAP	造血器腫瘍	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫に対する救援化学療法として、多剤併用化学療法として使用。100 mg/sqm 持続点滴にて1日、もしくは、25 mg/sqm 持続点滴にて4日間	次回以降
4	●									○									○		DHAP	造血器腫瘍	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫に対する救援化学療法として、多剤併用化学療法として使用。100 mg/sqm 持続点滴にて1日、もしくは、25 mg/sqm 持続点滴にて4日間	次回以降
13	○					▲															5-FU/5-FU (PF)	耳鼻咽喉科領域	頭頸部癌	頭頸部癌の初回・再発後化学療法の標準的治療1000mg/m2/d×4-5 days（持続静注）	次回以降
16						▲											▲				5-FU/LV	消化器	大腸がん	5-FU持続静注とLVの併用	次回以降
25								●														脳腫瘍	中枢神経悪性リンパ腫	中枢神経悪性リンパ腫	次回以降
26									●							●			○			脳腫瘍	多突起膠腫	多突起膠腫	次回以降
27	●						●															脳腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	次回以降
28					●		●															脳腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	次回以降
29	●	●					●														ICE	脳腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	中枢神経胚細胞腫瘍	次回以降
31			▲									○									アドリアシン（シクロフォスファミドとの併用）3	抗悪性腫瘍薬	乳癌	現行の用法・用量に、併用療法：シクロフォスファミドと併用する場合は、1回40～60mg/m2 3週1回投与、6～8サイクル投与を追加。	5月7日
34											▲										化学療法またはホルモン療法との併用	乳癌ほか	溶骨性骨転移	適合併症（病的骨折）骨に対する放射線療法（外科療法の必要性、脊髄圧迫症状）の軽減と予防、疼痛の軽減、点滴静注：現在の適応用量は高カルシウム血症に対して45mg／回であるが、90mg／回を使用可能にする。	5月7日
35	●		●																		AP療法	婦人科	子宮体癌	子宮体癌	次回以降
39														●							IL-2（静注）	皮膚科	悪性黒色腫	転移性悪性黒色腫：静注：60万～72万IU/kg/8時間毎：計14回	次回以降
40															●						IL-2（静注）	皮膚科	悪性黒色腫	転移性悪性黒色腫：静注：60万～72万IU/kg/8時間毎：計14回	次回以降
45	●																				Cisplatin+Doxorubicin, Ifosfamide あるいはCisplatin単剤	骨・軟部腫瘍	肉腫全般	Cisplatin 120mg/m2を単剤、またはDoxorubicinないしIfosfamideと併用、3週以上の間隔で投与。	次回以降
49	○							●					○								MTX, EPI, CDDP	泌尿器科	尿路上皮癌（膀胱癌）	抗腫瘍効果、静脈内投与。	次回以降
50	○	○		●																	TIP療法（Cisplatin, Ifosfamide, paclitaxel）	泌尿器科	精巣がん	再発性・難治性精巣がんに対する抗腫瘍効果、静脈内投与 75mg/m2, day 1, 21日毎	次回以降
51		●																				小児がん	小児固形がん	小児固形がん	5月7日
52			●																			小児がん	小児固形がん	小児固形がん	5月7日
53							●															小児がん	小児固形がん	小児固形がん	5月7日

● 適応外
○ 既存の効能・効果、用法・用量の範囲内であるが、使用上の注意等の対応が必要と考えられるもの
▲ 用法・用量が適応外
★ 申請中または再審査期間中